

『人生ハンド仏句』5月号（86）【行脚修行を通して伝わる「神仏の慈悲」】

前号のハンド仏句を読んで下さった皆様から、心温まるお言葉を沢山頂戴しました。

本当に感謝申し上げます。そのお言葉が、私の力となり、勇気となり、また更なる1歩へと突き動かしてくれます。そんな温かい御檀家さんや、御信者さんの方々が近くにおられるという希有な環境にも感謝が絶えません。本当に有り難く思っております。

人が人として生きる事の不思議に深い感動を覚えます。《人は自分で生きているのではない、生かされて生きているのだ》と、仏教は教えます。私も確かにそうだと思います。

朝、目が覚めて目が見え、手が動く、これは全身60兆個もの細胞が上手く調和してはたらいっているからだと言います。私達は髪の毛1本の白髪でさえ、自分の力で黒髪に戻す事なんて出来ません。ましてや全身60兆個もの細胞を規則正しく動かす事なんて、誰が出来るでしょう。やはり目に見えない存在、自分以外の何かが生かして下さっているということになるんじゃないでしょうか？

「そんな細かい事は知らねえや」と言ってみても、だからこそ自分の命は、自分自身で生きている訳ではない事が実感できるというものです。

そんな生かされている実感を再確認させて頂くことが出来た、今回の全国平和祈願行脚でした。

今月号は巡拝2日目、『伊勢神宮』参拝のお話をさせて頂きます。読者の皆様の中には、『伊勢神宮』へ参拝された事のある方も多いと思います。

昔は「一生に1度はお伊勢参りを」と、庶民の憧れの地だったそうです。「お伊勢さん」「大神宮さん」と親しく呼ばれ、辞書などでは「伊勢神宮」と紹介されていますが、単に「神宮」というのが正式名称の様です。そして江戸時代、「おかげ参り」として流行しました。まだ参拝されていない方には、是非1度、参拝される事をお勧め申し上げます。

その『伊勢神宮』は、「内宮」「外宮」「別宮」、あるいは「末社・結社」など、全部で125社もの宮が祀られており、それを総称して俗に『伊勢神宮』と呼びます。まあそうは言っても『内宮』と『外宮』の二つが、いわゆる『伊勢神宮』と言っています。

参拝の順序として「外宮」から「内宮」へと参拝するのが正しいらしく、私もセオリー通り「外宮」から参拝する事にした。「伊勢観光協会」に申し込みれば、ボランティアで「外宮」を案内して下さいます。案内時間は約一時間という事だったが、ジックリと1時間40分もの長きにわたってご案内して頂いたのには感動、感謝した。私が僧侶であり、平和を祈願して巡拝しているという事を申し上げたからなのか？兎に角、おおむねの伊勢神宮というものが理解出来た様な気がした。勿論、出発前に各神社仏閣については下調べをし、大量の資料も持ち込んだでの巡拝ではあったが、やはり生の現実性というのか、本物の体験には、机上の勉強なんて薄っぺらなものに感じた。

伊勢神宮は、存在感そのものに圧倒された。山という大自然の中に、悠々と鎮座されている各宮には、神聖なものを感じずにはいられなかった。天候にも恵まれたが、それにして水曜日の平日とは思えないほど沢山の参拝者がこった返していた。

結局「外宮」は2度参拝させて頂き、お昼過ぎに「内宮」への参拝に向かった。「外宮」から「内宮」まで約5<sup>分</sup>の道のり。お題目を唱えながら、昔から伊勢参拝の為の移動手段の道として使われていた「古市街道」という道路を行脚させてもらった。いざ「古市街道」を歩いてみると、昔の参拝順路でもあったと言っただけあって、数力所の寺社仏閣が建ち並び、まさに神聖な道路という趣を感じた。しかし勾配が激しく、歩くのも億劫になる程だった。そんな道中に『桜木地蔵』といって、昔から沢山の著名人も参拝に来られたという靈験正しきお地蔵様にご縁を頂くことが出来た。そのお地蔵様の前で、約四十分お参りをさせて頂いた。不思議と、それまでの疲労が無くなっていくかの様な心地よさを感じた。お参りを終えてからの道のりは、心なしか足取りも軽く、あつと言っ間に『内宮』に到着することができた。これもお地蔵様のお力なのか？

ようやく到着した『内宮』前には「外宮」には無い、沢山のお土産屋さんが建ち並び、お祭りの様相を呈し活気づいていた。神聖で静寂を保つ神宮境内なだけに、何か拍子抜けしてしまいそうな程の賑わいぶりだ。

私も誘惑に負けて、濡れせんべいや、伊勢エビコロッケなどを買い食いして歩いた。商店街の中には、ほとぼりが冷めたのか、あの伊勢名物と言われた「赤福」にも行列が出来ていた。中でも目を引いたのが、赤福製の「おぜんざい」だ。《1杯500円》と書かれた案内板の下には、美味しそうな見本も飾られていた。見れば、多くの参拝者が赤福製「おぜんざい」を食している。昼食を取っていなかった事もあり、目が欲しがってはいたが、赤福を素通りした。理由は、「内宮」から少し離れた場所に祀られている「別宮」を参拝しに行く為だ。心を質して、商店街を横切りながら「別宮」に向かっていると、「お陰横町」の通り沿いから「南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経…」と聞き慣れたお題目の文々が聞こえてきたのだ。「もしかすると私と同じ様な志をもって修行している僧侶がいるのではないか？」と、そう胸躍らせながら、声のする方へ足早に近づいてみると、そこには法衣をまとったお坊さんが、行き交う人達に威風堂々と、お題目を唱えているではありませんか。しかし見たところ日蓮宗の僧侶ではない。おまけに『方便品第二』「如是体 如是力 如是縁（作）？」…』とお経の文句が抜けていたり…。アレおかしいなあ…気になった私は、お経の終わるのを待ち、声を掛ける事にした。「ご苦労様でした。あなたはどちらの宗派の方ですか？」と私が尋ねると、「私は日蓮宗です」と答えてきた。私は耳を疑った。「日蓮宗ですか？」と聞き返すと、「はい日蓮宗です。何か？」「いや実は私は日蓮宗の僧侶なのですが、お名前は何と仰いますか？」「リュウショウです」と。「それにしても袈裟も僧衣も日蓮宗とは違うようですが？」と聞いたすと、「日蓮宗にも沢山の宗派に分かれていますよ？私はその一派なんです」と言う。「じゃあ日蓮宗というくらいですから、日蓮宗の心臓部、東京は池上本門寺にある宗務院はご存じですよ？」と尋ねると、「アア知っているよ。日蓮宗西本願寺派のことですか？」とチンプンカンプンの事を言ってきた。その当たりで私は確信した。この50代くらいの男は、坊主の格好をした『ニセ坊主』だ。つまり、在家で坊主の格好をして、伊勢神宮の商店街で、参拝に

来られた人を対象に、一儲けしようと賽銭箱を抱えて「南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経  
…」と唱えているというわけだ。そんな輩が神聖な伊勢神宮のお膝元で、しかも日蓮宗を  
名乗るなんぞ、私には許せなかった。

次号へ続く…

合掌 副住職 谷川 寛敬